

第1章 とやま呉西圏域における広域連携

1 都市圏ビジョン策定の趣旨

人口減少・少子高齢化が進行する昨今の社会情勢の中、地域の再生、創生を果たすには、一定の規模と都市・生活機能を包括する広域的な地域において、人口や活力ある社会経済を維持することが重要です。

本圏域を構成する富山県西部6市は、古くから呉西と称され、加賀藩に色濃く影響を受けた文化圏や、通勤・通学などによる一体的な経済・生活圏を形成してきました。しかし、全国的に急速な人口減少が進む中、本圏域では全国平均を上回る速度で高齢化が進行していることなどから、圏域の活力を将来的に維持・向上するためには、圏域ネットワークの一層の強化を図り、地域経済の活性化や交流人口の拡大、定住の促進を図っていく必要があります。

のことから、平成28年10月に県西部6市による「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」を形成し、6市が持つそれぞれの個性・特性を活かし、圏域の発展に向けた取組を進めてきました。

この間、東京圏への過度な一極集中や激甚化する自然災害への対応等の課題に直面しており、6市による連携の枠組みを維持、強化する必要性がますます高まっています。本ビジョンは、第1期、第2期ビジョンを継承しながら、新たな取組やこれまで進めてきた連携を更に深めることにより、圏域全体の経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう、中長期的な「圏域の将来像」とその実現に向けた取組などを示す戦略として策定するものです。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

(1) 連携中枢都市圏の名称

とやま呉西圏域

(2) 連携中枢都市圏の構成自治体

高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市

3 計画期間

2026 年度（令和 8 年度）から 2030 年度（令和 12 年度）の 5 年間



第2章 とやま呉西圏域の現状

1 圏域の概要

(1) 全体概要

本圏域は、富山県の中央部に位置する呉羽丘陵の西部、県内7大河川に数えられる庄川及び小矢部川流域並びにこれらの河川が注ぎ込む富山湾の沿岸部に広がる約1,500k m²のエリアです。

この地域は、高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市及び南砺市の6市から構成され、人口は約42万6千人（令和2年国勢調査）、県内に占める人口割合の41.2%、面積割合の34.8%となっており、県庁所在地の富山市（人口約41万4千人、面積約1,300k m²）とほぼ同規模の比較的コンパクトな圏域です。

圏域の特色・強みとして、産業面においては臨海工業地域を中心にアルミ、鉄鋼等の金属製品や化学産業が集積しており、高岡銅器や井波彫刻等の伝統産業も発達しています。またチューリップ球根、干柿、ハトムギ、コシヒカリ、富富富、マグロ、寒ブリ、シロエビ、ベニズワイガニ、ホタルイカ、庄川あゆなどの全国的な知名度を誇る農林水産品を有しています。

観光面では、庄川峡、砺波平野の散居村、富山湾越しの立山連峰の景観、富山湾の海の幸など、山から海に至る豊かな自然環境や、世界文化遺産・五箇山合掌造り集落、俱利伽羅源平古戦場、大境洞窟住居跡、国宝・瑞龍寺、国宝・勝興寺、高岡御車山祭、城端曳山祭、新湊曳山祭、高岡・山町筋や井波・城端の門前町など、歴史に培われた格調高い伝統・文化資産、また日本海側最大の斜張橋新湊大橋、海王丸パーク、氷見の漁業文化を伝える漁業文化交流センター（ひみの海探検館）、砺波チューリップ公園など、多彩な観光資源を有しています。

交通体系においては、古くから舟運、海運のネットワークにより地域経済を発展させ、その後、北前船等により広域的な交流を広げてきた歴史があります。現在も北陸自動車道、東海北陸自動車道、能越自動車道といった高規格幹線道路網や日本海側の総合的拠点港である伏木富山港、北陸新幹線などの広域交通・物流網のほか、通勤・通学等、地域住民の足となる、あいの風とやま鉄道、JR城端線・氷見線、万葉線があり、これらを域内外へ網羅的につなぐことにより、交流拠点としての存在感を有しています。

(2) 構成市の概要

○ 高岡市（連携中枢都市）

高岡市は、東西と南北に広がる広域交通網により県西部の各市をつなぐとともに、県西部と三大都市圏とを結ぶ交通の要衝であり、環日本海に向かつては総合的拠点港を有する日本海側中央部の「扇の要」に位置しています。

奈良時代には越中国守・大伴家持が223首もの歌を万葉集に残し、近世には加賀前田家2代当主・前田利長公が町を開くなど、時代の流れの中で創意を積み重ねながら、県西部の中核都市として文化・経済の両面で発展してきました。

北陸新幹線の開業や2つの国宝、瑞龍寺と勝興寺を有する「強み」を活かし、本地域の更なる求心力を高めるとともに、県内唯一の「脱炭素先行地域」への選定やこどもまんなかの推進など、様々なステークホルダーと共に新たな時代の潮流に対応すべく挑戦を続けています。

○ 射水市（連携中枢都市）

射水市は、富山県の中央に位置し、コンパクトな市域に、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した富山湾をはじめ、川、野、里山などの豊かな自然、連綿と受け継がれてきた伝統文化、さらには5つの高等教育機関が立地するなど、魅力ある資源が集積しています。

また、日本海側を代表するランドマーク「新湊大橋」をはじめ、国際拠点港湾である伏木富山港新湊地区（富山新港）や高速道路、鉄道といった物流の拠点となる社会資本も備えています。加えて、海王丸パークをはじめとした射水ベイエリアには多くの観光客が訪れており、特に港町の風情が漂う内川周辺は、映画等のロケ地として活用されるなど、知名度も上がっていきます。

このような特性を生かし、数多くの確かな地域力とともに、「人の流れ」「物の流れ」の中心として発展し、将来を担う子どもたちをはじめ、誰もが笑顔にあふれ、自分らしく活躍できるまちづくりに取り組んでいます。

○ 氷見市

氷見市は、富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、多くの幸をもたらしてくれる「青い海」と「みどり豊かな大地」を有し、人の心を引きつける自然の恵みに包まれています。

日本海側有数の氷見漁港には、四季を通じて豊富な魚種が水揚げされ、初夏の「マグロ」、冬の「寒ブリ」、そして「氷見鯛」は広辞苑にも掲載されるほど有名です。また、里山の幸にも恵まれ、氷見産米や氷見牛、ハトムギなど豊かな食文化を育んできました。さらに、日本ではじめて調査された洞窟住居跡「大境洞窟」や万葉の歌人大伴家持ゆかりの史跡など、歴史のロマンにも満ちあふれています。加えて、市内には温泉が湧出し「能登半島国定公園・氷見温泉郷」として親しまれ、このような恵まれた地域資源を活かした魅力的なまちづくりに取り組んでいます。

○ 砺波市

砺波市は、庄川の清流が育んだ肥沃な平野に家屋が点在する散居景観と、チューリップが有名であり、優れた住環境をはじめ医療や子育て環境、高齢者福祉サービスなどが充実しており、その豊かさや暮らしやすさは日本でもトップクラスであると評価されています。

農・商・工のいずれもが活力ある発展を着実に進めており、チューリップ球根の出荷量、種もみの生産量は日本一を誇ります。市街地には大型商業施設が立地し、先端技術の最新鋭工場から木工業をはじめとした伝統産業まで、様々なエネルギーに満ちています。

また、住民相互の交流による地域コミュニティや安全安心で健全な地域社会が形成、維持されています。

○ 小矢部市

小矢部市は、富山県の西の玄関口に位置し、砺波平野を貫流する小矢部川に育まれた穀倉地帯で、古くから小矢部川を利用した水運の発達により、加賀藩の藩倉が置かれたことから、宿場町・城下町として栄えてきました。

遠く加賀・能登を一望できる稻葉山牧野、清流と温泉の宮島峡、源平古戦場と日本三不動の一つ俱利迦羅不動寺のある俱利伽羅県定公園などの豊かな自然や、歴史的な発見が続いた桜町縄文遺跡、絢爛豪華な石動曳山祭り、色彩豊かな津沢夜高あんどん祭り、獅子舞が奉納される石動天神獅子舞祭など歴史や伝統にあふれています。また、能越自動車道、東海北陸自動車道、北陸自動車道の3つの高速道路が交差する交通の要衝でもあります。

平成27年7月には、日本海側初となるアウトレットモールがオープンするとともに、平成30年11月には石動駅の新駅舎と南北自由通路、令和2年3月には新駅に併設して新たに市民図書館が開館するなど、若者や女性を中心とした賑わいと魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

○ 南砺市

南砺市は、富山県の南西部に位置し、約8割が白山国立公園を含む森林で占められています。また、岐阜県境に連なる山々から庄川や小矢部川の急流が北流するなど、豊かな自然に恵まれています。市の北部の平野部では、水田地帯に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成しています。また、世界遺産「五箇山の合掌造り集落」を有し、四季折々の風景の中で、集落全体がまるでタイムスリップしたかのような昔ながらの雰囲気を醸し出しています。このような魅力から、国内外から多くの観光客が訪れ、その歴史と文化に触れる貴重な体験を楽しんでいます。

さらに、歴史・文化資源や、伝統工芸・特産品を活用した多彩な観光イベントが四季を通じて市内各地で開催されており、これらの地域資源を連携させて、交流人口の拡大や雇用の創出に取り組んでいます。

2 圏域の人口

(1) 将来人口推計

本圏域の総人口は 426,159 人（令和 2 年国勢調査）となっており、1985 年（昭和 60 年）の 491,217 人をピークに減少傾向が続いている。

近年では、若い世代の都市部への流出や出生率の低下等による人口減少と高齢化の進行、経済成長の低迷、それらに伴う中心市街地の空洞化が進んでいます。国立社会保障・人口問題研究所推計及び準拠推計値によると、圏域の人口は、2060 年（令和 27 年）に 249,990 人まで減少するものと推計されており、約 4 割の減少が見込まれています。

圏域の総人口と将来推計人口

(単位:人、%)

	総人口	将来推計人口					増減率 (R2—R42)
		2020 年 (R2)	2030 年 (R12)	2040 年 (R22)	2050 年 (R32)	2060 年 (R42)	
高岡市	166,393	151,998	135,667	119,270	102,815	▲38.1	
射水市	90,742	84,803	77,777	70,502	62,823	▲30.1	
氷見市	43,950	35,522	28,356	21,973	16,540	▲62.4	
砺波市	48,154	45,125	41,700	37,730	33,259	▲30.9	
小矢部市	28,983	24,662	20,865	17,263	14,070	▲51.5	
南砺市	47,937	39,572	32,339	25,965	20,483	▲57.3	
とやま呉西圏域	426,159	381,682	336,704	292,703	249,990	▲41.3	

出典：総人口…令和 2 (2020) 年度国勢調査

出典：将来推計人口(2030～2050 年度) … 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (令和 5 (2023) 年推計)」より

出典：将来推計人口(2060 年度) … 内閣官房・内閣府より提供された「将来人口推計のためのワークシート (令和 6 年 6 月版)」より、社人研推計準拠推計値

(2) 人口構成

本圏域の年齢別人口は、2020年（令和2年）で年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）ともに減少傾向にあり、2060年（令和42年）時点では、年少人口は2020年と比較して58.0%減少し、46,681人から19,627人に、生産年齢人口は48.6%減少し、233,232人から119,849人になると推計されています。

生産年齢人口の減少が進むことにより、農林水産業、製造業等を中心とする地域産業の衰退や地域医療、保健・福祉サービスを担う人材不足に伴う生活関連機能の低下が懸念されます。

一方、老人人口（65歳以上）については、2020年時点の146,246人から緩やかに減少し、2060年には110,516人になると推計されています。

高齢化率は、2020年時点では34.3%と全国平均（28.6%）を上回っており、圏域住民の約2.9人に1人が高齢者（65歳以上）となっています。2060年には住民の約2.3人に1人が高齢者になると推測されており、高齢化率は44.2%（全国平均37.9%）になる見込みとなっています。



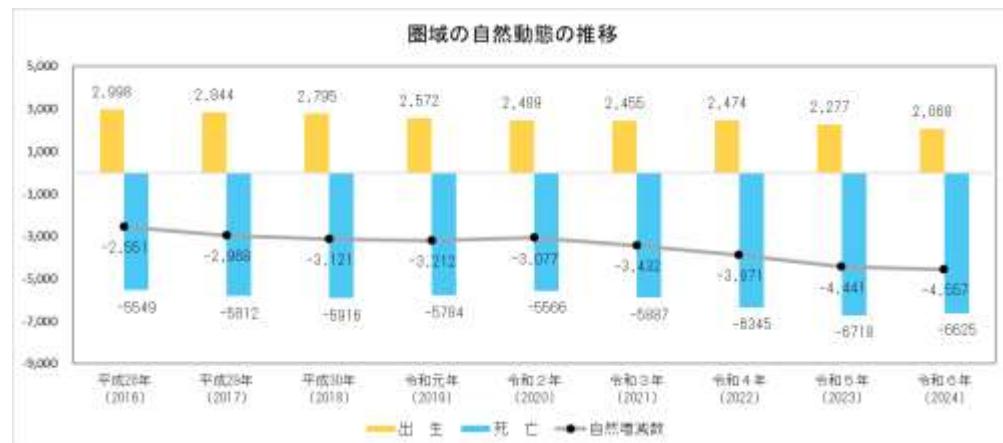
出典：将来推計人口（2030～2050年度）…国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」より

出典：将来推計人口（2060年度）…内閣官房・内閣府より提供された「将来人口推計のためのワークシート（令和6年6月版）」より、社人研推計準拠推計値

(3) 自然動態

本圏域人口の自然動態は、少子高齢化の急激な進行により、自然減の傾向が続いています。

区分	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
出生	2,998	2,844	2,795	2,572	2,489	2,455	2,474	2,277	2,068
死亡	5,549	5,812	5,916	5,784	5,566	5,887	6,345	6,718	6,625
自然増減数	-2,551	-2,968	-3,121	-3,212	-3,077	-3,432	-3,871	-4,441	-4,557

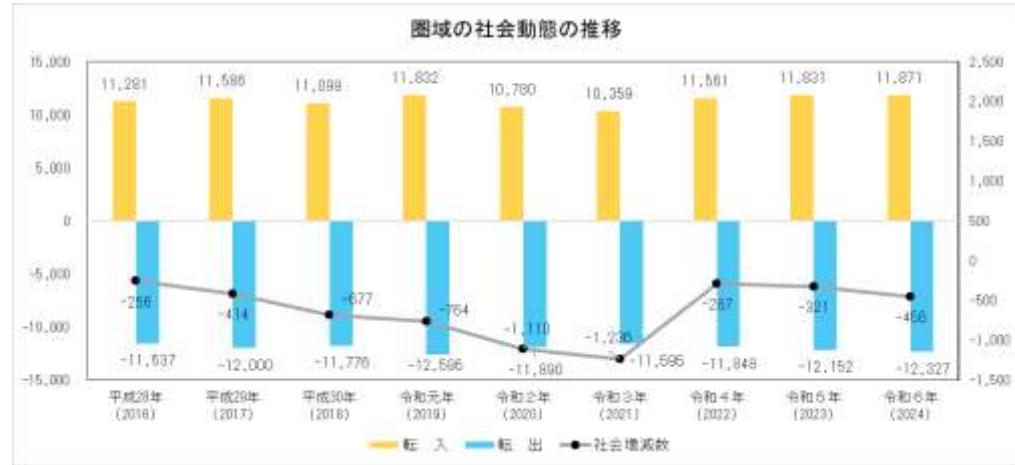


出典：富山県「人口移動調査（各年次）」 ※当年 10月 1日～翌年 9月 30 日で集計

(4) 社会動態

本圏域人口の社会動態は、転出超過ではあるものの、社会減の変動幅は小さくなる傾向になっています。

区分	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
転入	11,281	11,586	11,099	11,832	10,780	10,359	11,561	11,831	11,871
転出	11,537	12,000	11,776	12,596	11,890	11,595	11,848	12,152	12,327
社会増減数	-256	-414	-677	-764	-1,110	-1,236	-287	-321	-456



出典：富山県「人口移動調査（各年次）」 ※当年 10月 1日～翌年 9月 30 日で集計

3 圏域の産業

本圏域の就業者の総数は、2020年（令和2年）の国勢調査によると約21.4万人となっており、県内就業者数の約41.4%を占めています。産業別の構成比をみると、第一次産業が3.3%、第二次産業が33.3%、第三次産業が63.4%となっており、全国的な水準より、第二次産業比率が非常に高いといえます。（同年の全国比率23.0%）

産業別就業者数と割合

（単位：人、%）

	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
	就業者数	割合	就業者数	割合	就業者数	割合
高岡市	1,661	2.0	26,769	32.8	53,173	65.2
射水市	983	2.1	14,094	30.8	30,670	67.0
氷見市	891	4.2	7,202	33.8	13,220	62.0
砺波市	1,105	4.4	8,818	34.9	15,365	60.8
小矢部市	685	4.6	5,096	34.3	9,077	61.1
南砺市	1,675	6.6	9,322	36.8	14,334	56.6
とやま呉西圏域	7,000	3.3	71,301	33.3	135,839	63.4

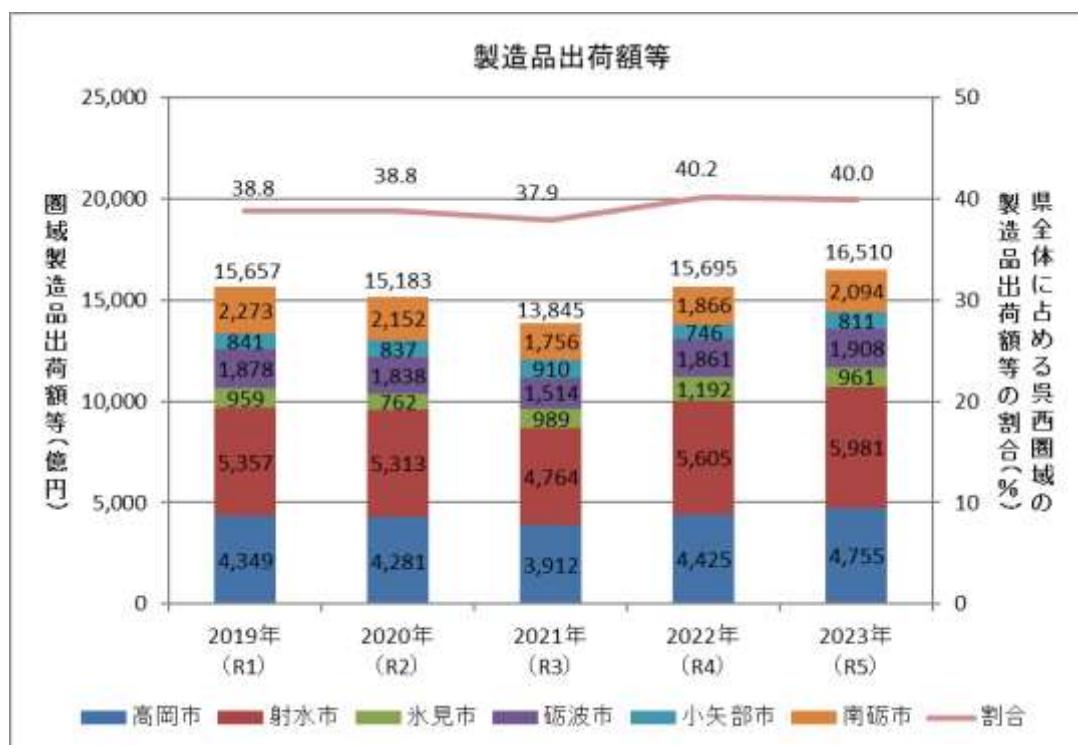
出典：令和2年国勢調査

（1）工業

本圏域はアルミ、鉄鋼等の金属・非鉄金属製品を中心に、一般機械、電子部品、繊維、化学、電気機械等、ものづくり産業が集積しているほか、銅器、鋳物、木工などの伝統工芸産業も盛んであることから、県内の工業拠点としての役割を担っているといえます。

圏域全体の製造品出荷額は、2023年（令和5年）時点では約1.65兆円となっており、県全体の製造品出荷額の約40.0%を占めています。同年の製造業事業所数は1,501事業所となっており、2019年（令和元年）と比較すると144事業所の増加となっています。また、製造業従業者数については、2019年時点の51,362人から2,161人減少し、2023年時点では49,201人となっています。

製造品出荷額は、2021年（令和3年）から2023年（令和5年）にかけて、圏域では19.2%の増加となっています。また、製造業事業所数及び製造業従業者数は、2022年（令和4年）までは減少し、以降は横ばいで推移しています。



出典：工業統計調査、経済構造実態調査



出典：工業統計調査、経済構造実態調査

(2) 農業・漁業

本圏域では、砺波平野を中心に広がる穀倉地帯が、良質な米の産地となっていながら、干柿、里芋、利賀そば、赤かぶ、ハトムギなどの特産品も数多く生産されています。また日本一の球根出荷量を誇るチューリップも有名で、春のチューリップフェアには全国から多くの人が訪れています。

直近5年間における本圏域の農業産出額では、2019年（令和元年）の293億円から、コロナ禍により2021年（令和3年）には243億円まで減少しましたが、その後2023年（令和5年）の260億円まで回復傾向となっており、県全体の44.5%を占めています。



出典：農林水産省「市町村別農業産出額」

圏域全体の農家戸数は2020年（令和2年）で7,717戸となっており、県の約44.6%を占めています。経営耕地面積は24,244ha、農家一戸あたりの平均経営面積は3.14haとなっています。

農業の担い手については全国的に減少傾向にあり、本圏域も同様、農家戸数は2000年（平成12年）の22,355戸から2020年には14,638戸の減となっています。



出典：農林業センサス

本圏域は、北部が「天然のいけす」と言われる富山湾に面しており、定置網が張り巡らされる良好な漁場となっています。富山湾は非常に海底が深く、複雑で起伏に富んだ海底地形や、対馬暖流と日本海固有冷水が混交し、好漁場を形成しています。

湾岸には氷見漁港や新湊漁港があり、四季を通じ、初夏は「マグロ」、冬は「寒ブリ」、さらには「ベニズワイガニ」、「アマエビ」、「シロエビ」、「氷見鰯」、「ゲンゲ」など、豊富な海の幸を堪能することができます。



寒ブリ



ベニズワイガニ

漁業経営体及び漁業就業者（※高岡市・射水市・氷見市ののみ）については、毎年減少しており、個人経営体は経営主の高齢化等による休廃業や後継者不足が課題となっています。



出典：漁業センサス

(3) 観光

本圏域の北部では、富山湾の氷見海岸から雨晴海岸にかけて、湾越しに3,000m級の立山連峰を間近に望むことができ、その景観は世界的にも珍しい大パノラマとなっています。南部では、砺波平野の水田地帯の中に屋敷林に囲まれた切妻屋根の農家が点在する「散居村」の美しい田園風景を見ることができます。世界遺産として登録されている五箇山地区では、冬の豪雪に耐えるため、屈強な構造を持った合掌造り家屋を見ることができます。



高岡大仏(高岡市)



海王丸パーク(射水市)



ひみ番屋街(氷見市)



砺波チューリップ公園
(砺波市)



クロスランドおやべ
(小矢部市)



世界文化遺産五箇山
合掌造り集落(南砺市)

また、海から山にかけての多彩な自然環境を備えるとともに伝統産業や文化財、祭礼行事、イベントなどの資源が豊富にあり、これらを核とした観光施設も整備されており、圏域の観光推進に活用されています。

区分	所在地	主な施設等
観光資源	高岡市	国宝瑞龍寺、国宝勝興寺、高岡大仏、高岡御車山会館、金屋町・山町筋・吉久の町並み、高岡城跡（高岡古城公園）、高岡市万葉歴史館、ミュゼふくおかカメラ館、高岡市 藤子・F・不二雄ふるさとギャラリー、高岡御車山祭、伏木曳山祭、福岡町つくりもんまつり など
	射水市	新湊大橋、海王丸パーク、県民公園太閤山ランド、竹内源造記念館、陶房「匠の里」、大島絵本館、新湊きつときと市場、内川の町並み、道の駅まるごと射水、川の駅新湊、新湊曳山祭、海老江曳山祭、大門曳山祭、富山新港花火大会、加茂祭（やんさんま）、稚児舞 など
	氷見市	氷見市漁業文化交流センター（ひみの海探検館）、氷見市潮風ギャラリー（藤子不二雄Ⓐアートコレクション）、氷見市 藤子不二雄Ⓐまんがワールド、氷見市海浜植物園（シーサイドパーク）、朝日山公園、氷見漁港場外市場ひみ番屋街、氷見温泉郷総湯、柳田布尾山古墳、大境洞窟住居跡、まるまげ祭り、氷見あいやまガーデン など
	砺波市	砺波チューリップ公園、チューリップ四季彩館、庄川水記念公園、庄川峡、庄川温泉郷、となみ夢の平スキー場、となみ散居村ミュージアム、出町子供歌舞伎曳山会館、増山城跡、となみチューリップフェア、庄川觀光祭、となみ夜高まつり、庄川水まつり、となみ夢の平コスモスウォッチング、庄川ゆずまつり、チューリップ公園KIRAKIRAミッショ など
	小矢部市	桜町JOMONパーク、埴生護国八幡宮、クロスランドおやべ、稲葉山牧野、俱利伽羅古戦場、稲葉山・官島峡県定公園、津沢あんどんふれあい会館、大谷博物館、石動曳山祭、津沢夜高あんどん祭、石動天神獅子舞祭 など
	南砺市	相倉・菅沼合掌造り集落、瑞泉寺、井波彫刻総合会館、閑乗寺公園、タカンボースキー場、くろば温泉、IOX-AROSA、棟方志功記念館、たいらスキーセンター、クリエイターブラザ、城端曳山会館、桜ヶ池クアガーデン、福野夜高祭、城端曳山祭、スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド、新そば祭りinTOGA など

直近5年間における圏域全体の入込数では、2019年の1,600万人から、コロナ禍により2020年には1,000万人を割り込むまで減少しましたが、その後2023年（令和5年）時点ではコロナ禍前の9割の1,470万人まで回復しており、県全体の入込数の53.2%を占めています。



(4) 主な大型商業施設

区分	所在地	主な店舗
大型商業施設 (店舗面積 5,000m ² 以上) 等	高岡市	イオンモール高岡、グリーンモール中曾根など
	射水市	コストコホールセール射水倉庫店、アル・プラザ小杉など
	氷見市	プラファ、イオンタウン氷見など
	砺波市	イオンモールとなみ、MEGAドン・キホーテUNY砺波店など
	小矢部市	三井アウトレットパーク北陸小矢部、ピアゴ小矢部店など
	南砺市	福野ショッピングゾーン(ア・ミュー)、楽蔵グリーンモール福光など

出典：富山県ホームページ「大規模小売店舗の概要」（令和7年4月1日現在）

4 都市機能の集積状況

(1) 高等教育機関

本圏域における主な高等教育機関は、2025年（令和7年）時点で5校あり、約3,200人の学生が在学しています。工学、法学、芸術、福祉等、知の拠点として企業・社会のニーズに応え、想像力と実践力を兼ね備えた社会の発展に役立つ人材を育成し、地域の発展に貢献しています。

大学・短期大学・高等専門学校の正規の学生数(令和7年5月1日現在)

区分	高等教育機関名	学部・学科	学生数(人)	所在地
大学	富山大学	芸術文化学部	478	高岡市
	富山県立大学	工学部	1,307	射水市
		情報工学部	340	
	高岡法科大学	法学部	117	高岡市
短期大学	富山福祉短期大学	社会福祉学科	59	射水市
		看護学科	159	
		幼児教育学科	48	
高等専門学校	富山高等専門学校	電子情報工学科	210	射水市
		国際ビジネス学科	213	
		商船学科	242	

出典：令和7年度 富山県の高等教育機関（速報値）

(2) 研究機関・産業支援機関

また、公的な学術研究機関として、県産業技術研究開発センター、県農林水産総合技術センター等が整備されているほか、圏域のものづくりデザイン拠点となる県総合デザインセンターや全国唯一となる県立の薬事総合研究開発センターなど、产学研官共同による研究・開発を推進しており、圏域産業の育成・高度化や地域の情報発信拠点として期待されています。

研究機関・産業支援機関

区分	主な施設
研究機関等	富山県産業技術研究開発センター（ものづくり研究開発センター、生活工学研究所）、富山大学先進アルミニウム国際研究センター、富山県総合デザインセンター、富山県農林水産総合技術センター園芸研究所・木材研究所、富山県栽培漁業センター、富山県衛生研究所、富山県環境科学センター、富山県薬事総合研究開発センターなど

出典：市町村調べ

(3) 文化・スポーツ施設等

本圏域では、各市において図書館や美術館、体育館等、様々な文化・スポーツ施設を整備しており、各地域の特色を活かした文化・スポーツ振興施策や施設の相互利用により、市民の生活の質の向上や交流人口の拡大に寄与しています。

区分	機能	主な施設
文化・スポーツ施設等	図書館	高岡市立中央図書館、射水市中央図書館、氷見市立図書館、砺波市立砺波図書館、小矢部市民図書館、南砺市立中央図書館など (18施設：高岡市5、射水市4、氷見市1、砺波市2、小矢部市1、南砺市5)
	美術館・博物館等	高岡市美術館、射水市新湊博物館、氷見市立博物館、砺波市美術館、アートハウスおやべ、南砺市福光美術館など (47施設：高岡市11、射水市8、氷見市1、砺波市6、小矢部市4、南砺市17)
	体育館等	東洋通信スポーツセンター（高岡市民体育館）、射水市新湊総合体育館、氷見市ふれあいスポーツセンター、富山県西部体育センター、小矢部市民体育館、南砺市福野体育館など (65施設：高岡市12、射水市8、氷見市2、砺波市16、小矢部市7、南砺市20)
	陸上競技場・野球場等	高岡西部総合公園野球場、歌の森運動公園野球場、氷見運動公園野球場、砺波総合運動公園、小矢部陸上競技場、福光総合グラウンドなど (16施設：高岡市5、射水市3、氷見市1、砺波市3、小矢部市2、南砺市2)

出典：市町村調べ

(4) 医療機関

本圏域には、高岡市・射水市・氷見市で構成する高岡医療圏と、砺波市・小矢部市・南砺市で構成する砺波医療圏があり、保健・医療と福祉に係る連携を図ってきました。圏域内には病院が42施設あり、そのうち公的病院が11施設となっています。これらの公的病院は、各医療圏において核となる医療機能を提供しており、その他の医療施設との連携のもとで、高度な医療サービスの提供と地域医療体制の確立に向けて機能の充実を図っています。

医療施設数等の状況

(単位：所、床、人)

	病院	病床数	一般診療所	病床数	歯科診療所	医師数
高岡市	16	2,486	135	75	80	454
射水市	6	725	48	16	33	122
氷見市	4	407	29	30	12	73
砺波市	6	769	35	12	18	141
小矢部市	6	534	17	—	11	53
南砺市	4	696	31	19	17	90
とやま県西圏域	42	5,617	295	152	171	933

出典：「医療施設調査」(令和5年10月1日現在)、「医師・歯科医師・薬剤師統計」(令和4年12月31日現在)

拠点病院等の状況

機能	医療機関・施設名
三次救急医療機関 (救命救急センター)	厚生連高岡病院（1施設：高岡市）
二次救急医療機関	厚生連高岡病院、高岡市民病院、JCHO高岡ふしき病院、済生会高岡病院、射水市民病院、金沢医科大学氷見市民病院、市立砺波総合病院、北陸中央病院、南砺市民病院、公立南砺中央病院 (10施設：高岡市4、射水市1、氷見市1、砺波市1、小矢部市1、南砺市2)
休日・夜間急病センター	高岡市急患医療センター、砺波医療圏急患センター (2施設：高岡市、砺波市)
地域周産期母子医療センター	厚生連高岡病院、市立砺波総合病院 (2施設：高岡市、砺波市)
がん診療連携拠点病院	[国指定] 厚生連高岡病院、市立砺波総合病院 (2施設：高岡市1、砺波市1) [県指定] 済生会高岡病院、高岡市民病院 (2施設：高岡市)
地域災害拠点病院	厚生連高岡病院、高岡市民病院、市立砺波総合病院 (3施設：高岡市2、砺波市1)

出典：富山県医療計画(令和6年3月)

(5) 公共交通等ネットワーク

本圏域は、日本列島のほぼ中央に位置しており、東の富山市、西の金沢市と隣接しています。また、3大都市圏からほぼ等距離に位置しており、鉄軌道や高速道路等によるアクセスが確保されています。

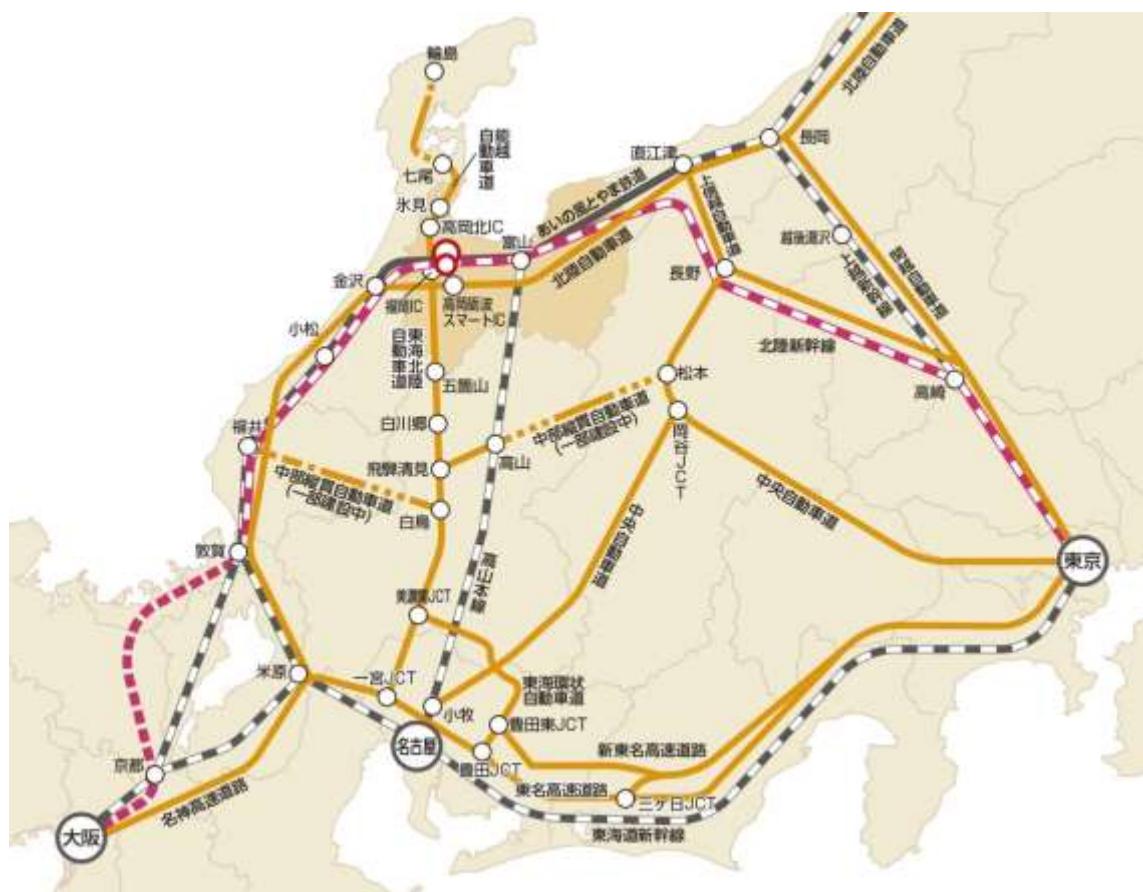
鉄軌道は、圏域を横断する北陸新幹線とあいの風とやま鉄道、また、高岡駅を起点として海側にJR氷見線と万葉線の2路線、山側にJR城端線の計3路線が南北方向の鉄道ネットワークとして形成されています。

道路では、広域幹線道路として北陸自動車道、国道8号、359号、415号が東西に横断しています。南北には、中京圏と直結する東海北陸自動車道と能登半島に伸びる能越自動車道といった高規格道路のほか、国道156号、160号、304号による道路ネットワークが形成されています。

また、日本海側の「総合的拠点港」である伏木富山港（伏木地区・新湊地区）を有し、国際定期航路や充実した港湾施設により、環日本海交流の中核を担う貿易港として期待されています。

富山きときと空港は、隣県である石川県の小松空港、のと里山空港と近接しており、陸・海・空の広域交通網が充実した本圏域は、広域的な交流拠点として発展する高い資質を備えているといえます。

三大都市圏からのアクセス



圏域の道路・鉄軌道等ネットワークの状況

